

# 先延ばし行動を規定する時間割引率に影響する要因

1230457 小松隼

指導教員 上村 浩

## 研究背景

先延ばし行動と、それによって生じる損失は、誰もが一度は経験したことがある問題である。本研究では、先延ばし行動を規定する要因と考えられる時間割引率と、この大きさに影響する要因に着目した。

## 研究目的

先延ばし行動について時間割引率の大きさに着目するとともにこれに影響を与える要因について、特に家庭環境と養育態度を取り上げ、これらが時間割引率の大きさを通じて先延ばし行動に影響するかについて検証することを目的とする。

## 調査・分析方法

大学生を対象に（20歳から23歳の20名）、時間割引率の大きさを測定するテストを実施するとともに、被験者の家庭環境に関するアンケートを実施した。

## 分析結果

回答者のうち、時間割引率の大きさを測定するための2つのテストの回答が整合的であった（両設問とも一貫した回答をした。）6名をサンプルとした。6名のうち5名が「子供の自主性を重視する家庭環境」で養育された経験を有していた。

## 結論・考察

先延ばし行動の抑制といった観点からは、幼少期の家庭環境、養育態度について、子供の自主性を育むという側面が重要であり、これにより先延ばし行動による損失回避の可能性が高まると考えられる。